

冠詞 (a と the) について

「冠詞」 - 具体的には a と the だけですが、その言葉の概念そのものが日本語にはない為どう理解していいかがわからず、結局よく分からない・・・という人が多いようです。

一方、名詞や動詞などの概念は英語でも日本語でも同じですので、例えば「名詞」といえば物事の名前を表す言葉として理解も容易なわけです。このワンページ・ショートレッスンで a と the について基本的なことだけでも理解してしましましょう。

冠詞とは名詞の前につける a と the のことを言い、a は不定冠詞、the を定冠詞とといいます。

- a (不定冠詞) は日本語でいうところの『1つの』とか『ある・・・』『とある・・・』のような意味を持ち、世の中にたくさんある同じような物の中のどれか一つ、つまりその中の『とある任意の一品』というニュアンスを表す言葉です。
- the (定冠詞) は日本語ではしばしば『その』と訳されることがあるように、特定の物や人を指すときに使われます。たくさんある中のどれか、どれでもいいから一つではなく、それ・・・と特定した物や人なのです。
- a と the の使い分けはルールとして決まっているところもありますが、その部分以外はおくまで喋り手(使用者)が選択すべき事です。
- 日本語の『人』を例にした文章で比較してみましょう。

例1) : A person talked to me near the station this morning. 今朝ある人が駅で私に話しかけて来ました。

- ある人とは見知らぬ人(特定できない任意の人)だったので a person
- 駅はいつも自分が使っている特定の駅なので the station

例2) : A man talked to me at a street crossing yesterday. 昨日ある男が交差点で私に話しかけて来ました。

- どの交差点かはつきり覚えていない程度のとある交差点なので a street crossing

例3) : The person was the father of my friend. その人は私の友人のお父さんでした。

- その人は 例2)の交差点で話しかけて来た人だったので特定して the person
- お父さんは特定すべき人物なので the father

例4) : A drowning man will catch a straw . 溺れる者は藁をも掴む。(ことわざ)

- 溺れている人は誰でも・・・の意味で a drowning man
- どの藁でもなんでも・・・の意味で a straw (因みにジュースを飲む時のあのストローです)

- ルールとして決まっている使い方も含めてまとめてみました。ただし例外もありますのでもっと詳しく知りたい方は「冠詞の使い方」などで検索して勉強を続けて下さい。

冠詞の使い方に関する基本的なルールとまとめ

- ★ 数えられる名詞 (countable noun) の単数には必ず冠詞 (aかthe) を付ける
- ★ 文章や会話の中に既に登場していてそれを指す時はその名詞にtheを付ける
- ★ 一つしかない唯一無二のものを表す名詞にはtheを付ける - the sun, the earth, the sky
- ★ 序数(順序を表す数字 -first, second,...)にはtheを付ける
- ★ 基本的には固有名詞、人名、国名、月・曜日にtheは付けない(ただし例外があります)